

ここに注目！



全国事例の研究を活かした事業実施と創業支援

ポイント

県、市、商工会議所、まちづくり会社等と綿密に連携。全国の成功事例等を研究し「まちゼミ」や「100円商店街」を県内でいち早く採り入れ、その後も継続的に実施。また、関係機関と連携しながら、商店街における創業を促進するため、新店舗の受入体制の構築や不動産情報の掘り起こしを行うなどの創業支援事業にも積極的に取り組んでいる。

【現状分析及び課題抽出】

Plan

個店のファン作りで魅力ある商店街に

商店街では、賑わい創出のための様々なイベントを実施しているが、郊外に大型店・スーパーが立地し、中心市街地の商店街は苦戦を強いられている状況である。併せて、空き店舗の増加や顧客満足度の低迷といった課題もあり、活性化のため、より一層の取組が求められている。このことから、個店の認知度向上のためのPR活動、ファン作り、空き店舗対策等による商店街の新陳代謝促進などを早急に実施する必要がある。

【対応策の優位性】

Do

新たな取組を、地域と一体になって推進

集客のきっかけづくりとして、毎年8月8日に商店街エリアを歩行者天国にして様々なイベントが行われる「ヤーヤーまつり」を実施している。開催回数は、これまで42回を数え、認知度も高く例年多くの市民で賑わっているが、イベントの来客を商店街や個店の顧客に繋げていくため取組が重要であると考え、「100円商店街」や「ピンゴラリー」なども定期的にも実施している。さらに、商工会議所を中心としたまちゼミ実行委員会に協力し「田辺のまちゼミ『まなべる』」にも取り組んでいるほか、「商店街マガジン」を発行して情報発信にも力を入れている。また、創業者支援・後継者対策・空き店舗対策強化のため、平成25年度から商工会議所と連携して「商店街における

基本データ

田辺市商店街振興組合連合会
所在地:和歌山県田辺市湊
人口:約8万人(田辺市)
会員数:273名
店舗数:255店舗(買回品小売店94、最寄品小売店33、飲食店45、サービス店43、その他40)
商店街の類型:近隣型商店街
主な客層:主婦、会社員、高齢者
関連URL:<http://tanabe-shouren.kiilife.jp/>

商店街概要

田辺市商店街振興組合連合会は、昭和42年に法人化した組織で、9つの商店街で構成され、組合員数は256店舗である。田辺市の中心市街地に位置し、古くから県南部地域の中心的な商業地として発展してきた。現在は郊外への大型店・量販店の進出やインターネットでの買物利用の増加等による影響があるものの、様々なイベントによるにぎわいの創出や個店のファンづくり、また、創業者支援にも取り組むなど、商店街の魅力向上のために日々努力している。



歩行者天国にして行う「ヤーヤーまつり」

創業促進事業」に取り組んでおり、空き店舗情報の共有や創業者の受入体制の構築、創業ゼミなどを実施している。いずれも、商店街、商工会議所、まちづくり会社及び行政が参画、効果的な事業展開が図られている。

[効果の評価及び改善策]

Check-Action

取組の輪をさらに広げて

各イベントを定期的を実施することで、商店街と関係団体等との間にも一体感と活気が生まれてきた。また、イベントの効果も着実に上がっている。例えば「まちゼミ」への参加をきっかけに、その店のファンとなり、後日再訪問して商品を買ったり飲食したりする人も増えている。

今後は商店街活性化の機運をさらに盛り上げ、個店の集客・売上増に繋がる取組を進めるとともに、創業者を支援することで商店街の新陳代謝が図れるよう、官民一体となって取り組んでいくことにしている。

委員会及び青年部が具体的な取組を進める体制となっている。また、商工会議所やまちづくり会社、行政などとも連携し、地域が一体となって商店街活性化が図られるよう取り組んでいる。



様々なイベントによるにぎわいの創出

[実施体制等]

より効果的な事業実施体制を構築

田辺市商店街振興組合連合会では、三役会・理事会を月1回開催し、各種事業の方針を協議している。それを受けて、同連合会の若手経営者で組織する事業



キーパーソン

田辺市商店街振興組合連合会
理事長 泉 清

難しい事ほど取り組もう！

理事長に就任して三年、「新しい風を」と期待されながらスタートしました。

就任以降、常に心がけたことは、「先入観を持たず、お客様目線で考えること」でした。例えば、商店街マップを作成する時、人が住んでいない海側からの目線ではなく、多くの人々が住む郊外からの目線にレイアウトを変えて好評を得ました。

イベント事業にも積極的に取り組んでいます。当地では、40年以上続く一大イベント「ヤーヤーまつり」があります。毎年8月8日の夜、商店街を歩行者天国にし、独自で準備したゲームや音楽ライブ、夜店などを行います。10代、20代の人を中心に賑わっているのを見ると、まだまだ私たちの商店街は元気になれると確信しています。

また、商店街の周辺にある観光施設と連携して、施

設を訪れた観光客に商店街で使えるクーポンチラシを配布する事業も行い、多くの人に楽しんでいただけたところです。他にも国の補助事業を活用して、商店街マガジンを発行したり、商店街や町の歴史に関する写真を展示して、学生と高齢者が交流する「古の写真de交流事業」など様々な事業に取り組みました。

商店街のファンを増やすため、チャンスと感じたら即実行、難しい事ほど取り組もうと考えています。

目指す商店街像（今後の展望）

商店街を取り巻く環境の変化として大きいのは、旅行客の増加です。世界的に有名な博物学者「南方熊楠」の家や顕彰館、武蔵坊弁慶生誕に関する史跡などを巡るまち歩き観光客が増えました。さらに、世界遺産に登録された「熊野古道」を歩くため、ヨーロッパを中心とした外国人観光客も増え、賑わいを見せています。人が集まる場所に店ができ、お客さんに喜ばれる商品を販売する。商店街はそうして出来たと思います。

平安時代の「蟻の熊野詣」で発展した街が、もう一度「平成の熊野詣」で発展する時が来たと感じます。このチャンスを一過性に終わらせず、時代・環境・ニーズに合わせながら、ここにしか無い魅力ある商店の集まる街になるように取り組んでいきたいと思っています。